



# 水稲営農だより



令和3年第3号[5月17日発行]

J A つ が る 弘 前  
弘 前 地 区 営 農 係

## ★天気がよく暖かい日に田植えをしましょう！★

今年も、田植えの時期となりました。代掻きは丁寧に、そして作業は計画的に進めましょう。

- ・田植えまで降霜の恐れがないかぎり、ハウス・トンネルを日中・夜間問わず全面開放し、苗を外気に慣らしましょう。
- ・田植えは天気がよく暖かい日に行い、活着の促進と茎数の早期確保で、良質安定多収を目指しましょう。

低温が続くような日に田植えをすると代枯れの発生、活着の遅れ、養分の消耗により分けつが抑制され、茎数の確保がしにくくなります。



### ①初期病害虫防除（箱処理剤）

薬 剤 名	使用量 (箱当り)	使用時期(田植え)	イネドオムシ	イネミスゾウムシ	いもち病
パダン(粒)	80g	当日	○	○	—
ジャッジ(箱粒)	50g	3日前～当日	○	○	○
ブイゲットバイソン(粒)	50g	緑化期～当日	○	○	○



イネドロオムシ(幼虫)



イネドロオムシ(成虫)

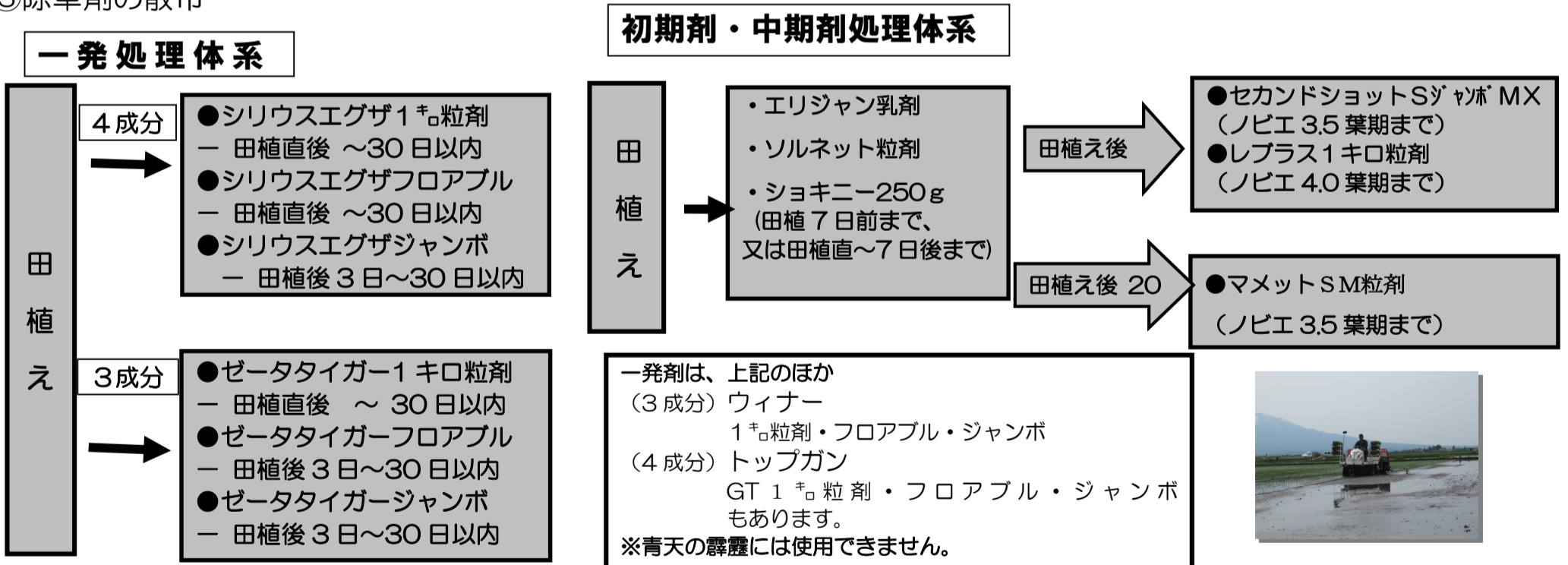


イネミスゾウムシ(成虫)

### ②田植え～活着期の水管理

- 1) 暖かい日は2～3cm程度の浅水で、日中の水温と地温の上昇を図り、活着及び初期生育の促進に努めましょう。
- 2) 寒い日は4～5cmの苗が冠水しない程度のやや深水で、苗を保護しましょう。
  - ・寒い日の深水管理は、水温が気温より高くなり、養分の消耗を抑える働きがあります。
  - ・風が強い日の深水管理は、葉からの水分蒸散を抑え葉の枯れ上がりを少なくする働きがあります。
  - ・暖かい日に長期間の深水管理をすると、分けつを抑制する恐れがあるので控えましょう。
- 3) 活着と生育の促進を図るため、かけ流しは行わないにしましょう。
- 4) 田面に高低の差があって、苗の水没や田面が露出するような水田では、アゼシートを使い水深を調節してください。

### ③除草剤の散布



### 除草剤をうまく効かせるコツ

- ・除草剤は、早めの散布を。(代掻きから10日以内を目安に使用期間内で早めに散布しましょう。)
- ・毎年雑草が多い所では、初期剤・中期剤の体系処理を行いましょ。
- ・1日に水位が2cm以上低下するような水もちが悪い所では粒剤を使用するようにしましょう。
- ・除草剤の効果を安定させるためには、やや深めの水位5cm以上を最低3日間は保ち、散布後7日間は落水やかけ流しは行わないにしましょう。



ヒエ



ホタルイ



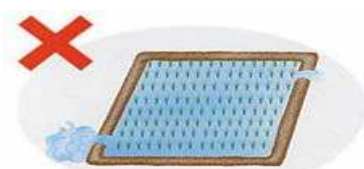
オモダカ



コナギ



●整地、代かきはいねいに



●散布後の落水、かけ流しはダメ！